

政策研究のニーズについて

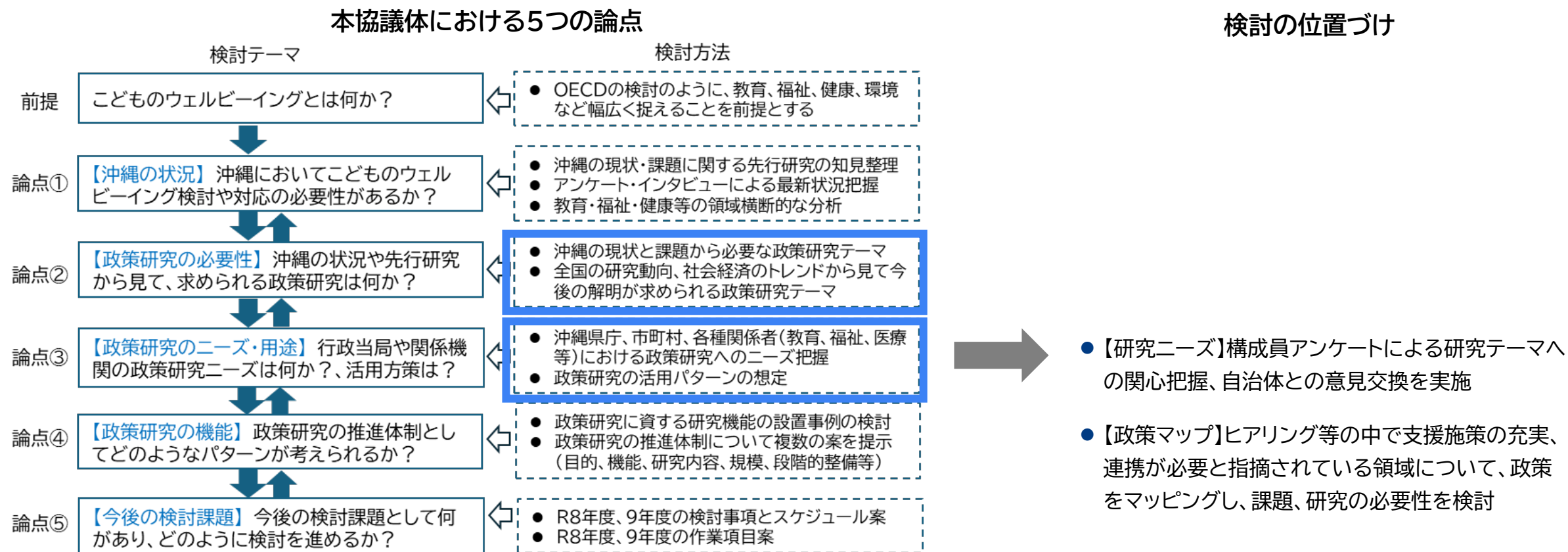
MRI エム・アール・アイ リサーチ アソシエイツ

2025/12/12

MRI 三菱総合研究所

政策研究のニーズの検討の位置づけ

- 論点②③に関連し、以下の調査を実施。
 - 構成員アンケートによる研究テーマへの関心把握、自治体との意見交換。
 - 研究テーマに挙げた「支援施策間連携のあり方」について、どのような課題があるか試行的に分析（対象は、高校生以上のこども・若者に対する政策とした）。



1. これまでのヒアリング、協議体意見に見る政策研究ニーズ

- 沖縄の課題、構成員意見等を踏まえて、政策研究ニーズを第3回協議体資料で提示

沖縄のこどものWB向上のために説明が求められる事項、求められる知見(第3回協議体資料)

	研究の基本方針	沖縄のこどものWBの構造説明	効果的なサポートのあり方の説明	サポート供給体制、その他
協議体でのご意見より	【A1】 (求められる研究スタンス) データに基づく分析の必要性 【A2】 (研究の視点) 検討の進め方(こどもの声の解析、目標設定、バイオ・サイコ・ソーシャル等)	【B1】 ・こどもの成長、長期的にみたWBの視点、キャリア形成に係る問題 ・(沖縄における問題点)幼少期からのキャリアビジョン形成の課題 【B2】 こどもに関わるおとな、支援者のWBの向上のあり方	【C1】 ・サポートの仕方の改善方策 ・(沖縄における問題点)支援の仕方の工夫の必要	【D1】 サービス供給体制、関係機関の連携、職員の人材育成、ウインウインの仕組構築のために
文献調査・ヒアリング調査より		【B3】 親とこども両面からみた短期的・中長期的なこどものWB向上の方策 家庭 【B4】 教師のWBを踏まえたこどものWB向上方策 学校・保育所・施設 【B5】 沖縄の社会文化的特徴(意識)の把握、それを踏まえた取組のあり方 地域社会	【C2】 困難を抱える家庭におけるこどものWB向上方策 家庭 【C3】 現在起きている変化に合わせたこどものWB向上方策 地域社会	【D2】 個人に適した支援の在り方及び情報共有の方法・仕組みの定型化の方策 学校・保育所・施設 【D2】 支援実現の方策及び仕組み・意思決定方法の構築 その他 【D3】 沖縄のこどものWBに関するデータ基盤・学術研究のエコシステム構築 その他

(参考)第3回協議体で例示した研究テーマ

①現在、顕在化している問題点に対応して解決策を見出すためのテーマ例(支援体制のあり方の検討)

把握したい事項(ニーズ)	研究テーマ例	問題意識、アプローチ例
支援者間での連携を効果的に進めるにはどうしたらよいか D1 D2	支援機関間の効果的な連携方策に関する研究 【趣旨】支援者間での情報連携、子どもへのサポートのつながり等の面で課題があり、解決が期待される。	- 子どもに関する情報を、簡易かつ個人情報管理をしつつどのように共有するか。 - 子どもに連続した対応をするため、例えば、学校と居場所との連携をどう進めるか。 - 最適な支援に向けた支援組織間の連携、の分業体制の見直し。等
困っている層への支援の仕方をどう改善できるか C1 C2	サポートの仕方の改善方策に関する研究 【趣旨】支援が必要な家庭にどう支援を届けるか(不要と言われてしまう問題等)、体験格差、精神的な面での対応等どのようなサポートが有効かの説明が期待される。	- 困っている層における各種問題の構造、関係の分析。 - 困っている層に負担感や抵抗感を感じさせずに支援を届ける方法を解明。 - 教育・福祉・保健分野にまたがった支援策について実験的アプローチも含めて検討。
こどもの声の把握、活用をどう進めるのが効果的か A2	こどもの声の把握、対応の方策に関する研究 【趣旨】こどもの意見(view)を聴く取組は全国では始まっているが、模索段階にある。どのように声を把握し、対応を進めることが有効かの説明が期待される。	- こどもの声の把握に関する有効事例の検討、実験的アプローチ。 - こどもの声への対応に関する事例調査、政策や現場での取組への活用方策の検討。 - 新技術の活用(例:表情や声のAI解析技術)の可能性を視野に入れた研究も期待される。
バイオ・サイコ・ソーシャルの横断的な問題把握 A2	バイオ・サイコ・ソーシャルにまたがる分析 【趣旨】バイオ・サイコ・ソーシャルの観点で子どもを複層的に捉える分析が発展途上のため、今後研究を強化し、課題や対策の検討につなげることが求められる。	- バイオ・サイコ・ソーシャルにまたがる視点での実態を把握し、解決の方向性を見出す。 - 困っている層において健康診断の受診率が低い等の問題がある。貧困状況による健康格差、体験格差等も指摘されている。

②長期的な政策の方向性を考えるために、基本的なファクトを把握しておきたいテーマ例(沖縄のこどものWBの構造解明)

把握したい事項(ニーズ)	研究テーマ例	問題意識、アプローチ例
沖縄のこどもが大人になるまでの成長過程を見通して、望ましい対応は何か B1	こどもが大人になるまでの発達過程の長期的なWBの変化や要因、キャリア形成のあり方の研究 【趣旨】現状、沖縄のこどもの主観的幸福度は比較的高いが、大人への発達過程全般を見通した場合に課題がある可能性がある。発達過程全般にわたる検証が求められる。	- 沖縄のこどものWBが大人への発達過程においてどのように変化するか、その要因は何か、同一集団を10年以上継続的に調査し、解明することが有効ではないか。 - 短期的には、大人になった人に子ども時代を振り返ってもらい、WBに影響する因子を抽出するアプローチが考えられる。 - 現状、教育・福祉・保健にまたがる同一年出生集団(コホート)の研究事例は少ない。
こどものWB向上のためにおとなのWB向上をどう進めるべきか B2 B3 B4	こどもに関わるおとなのWB向上方策の研究 【趣旨】こどもに関わる大人の幸福度が上がると子どもの幸福度もあがることがわかっている。こどもに関わる大人のWBをいかに向上させられるかの説明が求められる。	- こどもに関わる大人(保護者、教師、支援者等)のWBが高いとこどものWBも高まる傾向がある。大人のWBの因子については各種の研究がある。 - こどもに関わる大人のWBを向上させるために何が重要か、政策的対応の可能性はないか等を解明することが求められる。
他県とは異なる沖縄の社会文化の特徴は何で、こどものWB向上にどう生かすか B5	沖縄のこどもに関わる社会文化的特徴の研究 【趣旨】沖縄には他県とは社会文化がある。その特徴を把握するとともに、沖縄のこどものWB向上のために必要な対応の検討に活かすことが求められる。	- 例えば、ゆいまーの文化、なんくるないさーの文化、離島性、産業構造に基づくメンタリティ等の特徴は、現在も続いているか。どのように変化しているか。 - 沖縄のこどものWB向上のために、沖縄の社会文化の特徴をどう踏まえて対応すべきか。

(参考)第3回協議体で例示した研究テーマ

③沖縄のこどものWBの状況把握、政策効果把握等に関わるテーマ例(データ基盤整備)

把握したい事項(ニーズ)	研究テーマ例	問題意識、アプローチ例
沖縄のこどものWBの基本的なデータ整備 A1 D3	沖縄のこどもWBの定点把握 【趣旨】沖縄のこどもWBの基礎データとして定点的に調査を行い、様々な分析に活用することが求められる。	- 沖縄県庁において実施しているこどもの実態調査を定点調査化し、時系列的な変化、各種層別の比較検討等の分析のベースとすることが考えられる。 - それとは別に、教育・福祉・保健にまたがるこどものデータを収集・蓄積・分析する仕組の検討が考えられる。
沖縄のこどものWBの指標体系の作成と政策評価に活用できるデータ基盤の整備 A1 D3	沖縄のこどもWBの指標体系の作成 【趣旨】沖縄のこどもWB実現を目指すにあたり、WBの指標体系を作成し、各種政策がWBにどのように貢献したかを把握するための基本データとする。 政策の効果、政策の評価のための研究 【趣旨】沖縄のこどものWBへの貢献を目標として、各種政策の貢献状況の把握、より効果的な推進方策の検討を行うことが求められる。	- こどものWBに関する各種指標体系を参考にしつつ、沖縄において重視する観点を加えて、WBの指標体系を作り、それに基づく定点調査、政策効果分析等に活用することが考えられる。 - こどものWBに関する各種指標体系の作成と合わせて、政策の効果分析を行い、政策の改善に活用することが考えられる。

④その他(民間主体、最新トレンド、研究戦略)

把握したい事項(ニーズ)	研究テーマ例	問題意識、アプローチ例
民間主体によるこどもWB向上をどう実現するか D4	民間主体によるこどもWB向上への貢献手法の可能性、効果的な手法に関する研究 【趣旨】民間の支援団体、民間企業の活動、地域の活動等、行政だけでなく各種主体による効果的な取組の可能性を探り、民間主体の活動に活かすことが求められる。	- こどものWB向上のためには、行政による対応だけではなく、民間主体の役割が大きい。民間主体における取組の可能性についての研究は発展途上である。 - 民間主体があまり負担を感じずに、こどものWB向上に役立つ活動ができるような共助モデルを見出すための研究が必要ではないか。(例:時間や場所の活用、シェアハウス等)
最新トレンドにどう対応するか C3	ネット社会の影響と対策に関する研究 【趣旨】SNS等の普及はこども社会に多大なる影響を与えているが、その実態は十分解明されていない。最新トレンドにタイムリーに対応した研究が求められる。	- こども社会の意識に大きな影響を与えているSNS等について最新の状況を把握し、影響の分析、対応のあり方の検討を行う。 - 地域での取組に留まらず、国の規制等のあり方の検討も必要となる可能性もある。
こどものWBに関する研究戦略立案のための研究 前掲図にないが、全体に関わる	こどもWBに資する研究動向サーベイと情報提供、研究戦略の立案のための研究 【趣旨】こどもWBの実現に向けて参考となる知見を常時収集し情報提供することが求められる。また、研究戦略の立案のための研究が求められる。	- こどもWBに貢献する既存の知見、研究動向をマッピングし、分野横断的に研究動向をサーベイするとともに、その結果を関係機関に解説とともに情報提供し、活用を促す。 - 沖縄のこどものWB実現に向けて特に研究が必要とされるテーマを検討するため、沖縄の現状、国内外の研究動向等を勘案して研究戦略を立案するための研究を行う。

2. 政策研究テーマに関する構成員アンケートの結果(1)

- 沖縄のこどものウェルビーイングを考える上で一番大切なことや、目指すべき沖縄のこどもの状態はどのようなものだとお考えですか。
- 最も意見が多かったのは、「こどもが将来に夢を持ち自分らしく成長すること、自己肯定感」であり、こども本人の希望が叶えられる環境を整えていくことに関するご意見を多くいただいた。

カテゴリ	ご意見(抜粋)
こどもが将来に夢を持ち自分らしく成長すること、自己肯定感	こども自身で自らの望む将来を選べ、そこへ向かって努力できること。
	沖縄のこどものWANTSとNEEDsを踏まえた対策をとること。将来に夢を持ち、そのために頑張ることができること
	全てのこどもが、必要なものが手に入り、当たり前のことができ、生き生きと暮らしている状態
	育つ環境が違っていてもすべてのこどもが、自分の人生を設計し、それに向かって歩むことができる。
	沖縄の子どものよいところを見つけ、そこをもっと伸ばせるような環境にいられること。
	まずは本人が幸せと感じているという主観的な要素、それとともに、それを支える周囲の環境がきちんと整っているか(親、先生、友人たちとの関係、家庭の経済状況、学校の十分な学習や体験機会の確保、地域のサポート体制など)
	こどもが自分自身を大切にしながら、自分らしく生きられる。大人にとってもこどもの成長を楽しみに見守ることができる。そのための環境を、家庭・学校・地域・社会全体で整えることが重要と思われる。
	沖縄の子どもたちは、親族や友人といったやさしいコミュニティに囲まれていて、それが社会生活の中でも続いていてきた。しかし、沖縄県こども調査でも示したように、現実の社会はコミュニティが崩れつつあり、学校内でも孤立があったり、親が親族や地域から疎遠になるなど将来の不安は増している。そこからしっかりと自分を強く持つていくための自尊心の高さが問われている。自分を大切にしつつ他とも切磋琢磨して社会課題に挑んでいく「確立した個」同士が結び合うことが目指すべき状態ではないかと考える。
	全国、世界の子どもたちと違いはなく、自身が幸福と感じる、自己肯定感を持っている状態だと考えます。

2. 政策研究テーマに関する構成員アンケートの結果(2)

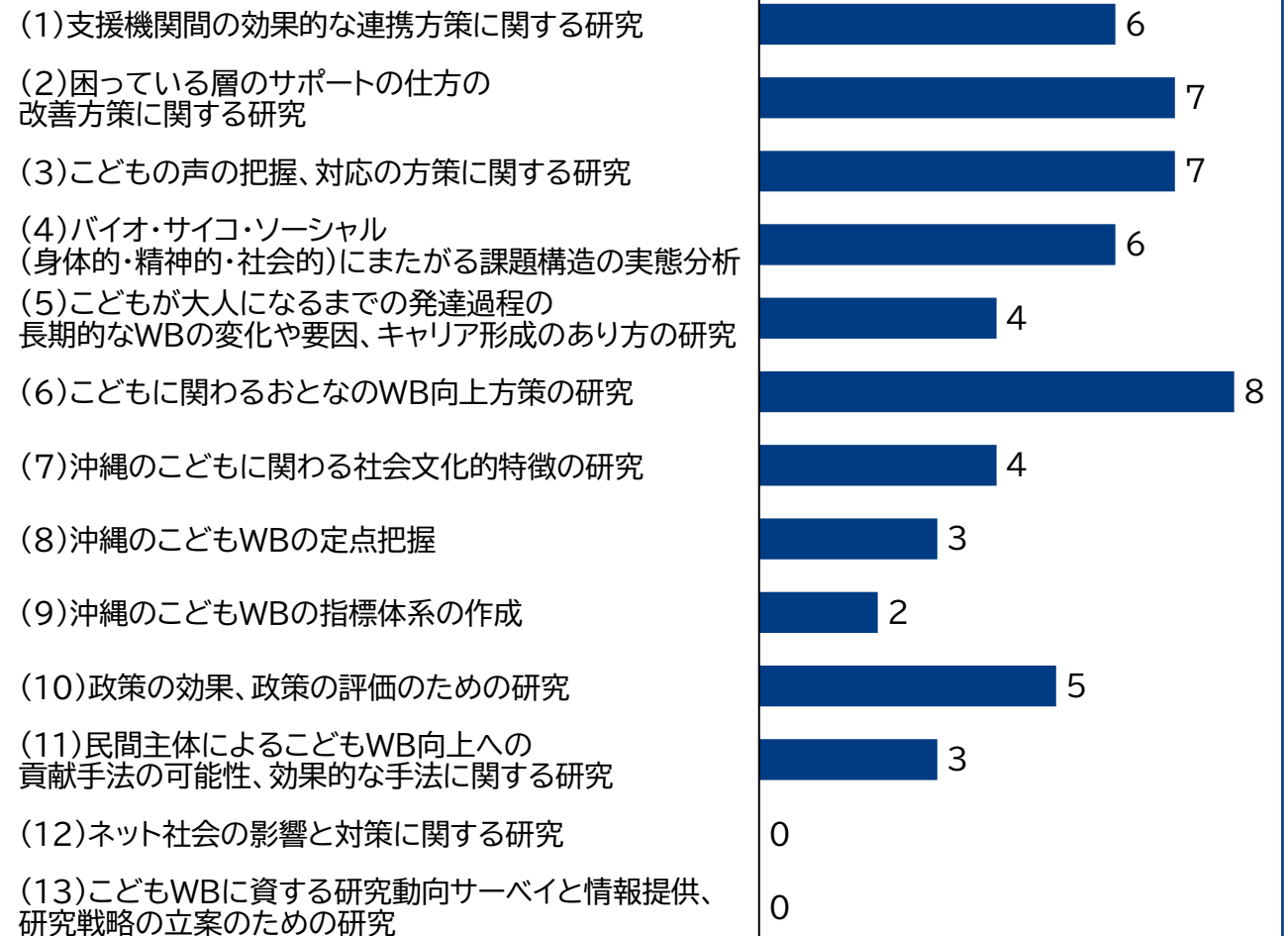
- 沖縄のこどものウェルビーイングを考える上で一番大切なことや、目指すべき沖縄のこどもの状態はどのようなものだとお考えですか。(続き)
- その他、「こどもの周りの大人の関わり方」「安心・安全、人権、生活保障」「現状・課題の把握・分析」に関するご意見をいただいた。

カテゴリ	ご意見(抜粋)
こどもの周りの大人の関わり方	こどもだけでなく家庭や地域を含めた応援(支援)体制を充実させ、親がウェルビーイングを実現し、それがこどもの精神的安定や幸福感に繋がり、地域全体で子育てを応援し、こどもたちが夢や希望を持ち、自分らしく安心して成長できる社会の実現を目指す必要がある。
	こどもの周りの環境である大人の在り様。「家庭」「学校・保育所・施設」「地域社会」の構成員である大人が、こどもを励まし、一人一人の良さや可能性を伸ばしていけるような環境となることが大切となる。
	沖縄のこども本人は無論、こどもの親(すなわち家族)が一体として幸せを感じている状態が最終的に目指すべき状態と考える。
	こどもの貧困率を改善させ、貧困の連鎖を断ち切るとともに、こどもに関わる大人(親や教師)のウェルビーイングを向上させるためのケアやヒアリング等を実施することが、ウェルビーイング実現に向けた一歩になると考える。
安心・安全、人権、生活保障	どのような生き方を選択しても(学校教育に適應できなくても、働けるのに働かなくても)、最低限の生活が保障される社会を作ること。
	県内のどの地域に住んでいてもこどもが安心・安全に生活ができ、こどもの人権が守られている状態。
現状・課題の把握・分析	沖縄独自の環境、文化が及ぼす影響を意識した上で、沖縄のこどものウェルビーイングを考える必要がある。
	現状の課題、特に様々な支援施策の連携が十分に行われていないという実態について、なぜ、そのような実態が継続しているのかについての原因の特定と、その解決に向けた具体的策の構築。
	何が「万人に保障される最低限のニーズ」と認められるのかを、様々な実証研究から明らかにする必要がある。社会調査法の観点からは不十分なものも少なくないため、社会調査法や統計学に精通した専門家を必ず複数名入れて、実態把握に向けた調査研究を展開することが重要。
	沖縄ならではの種々の問題(貧困、若年出産、保護者の離婚率の高さ、離島の子どもたちの15の春等)を解決することが大切。
	沖縄の方々が納得して決めるプロセス。できればそこに子ども・若者・保護者の意見も入るとよりよい。

2. 政策研究テーマに関する構成員アンケートの結果(3)

- 今後実施すべきと考える政策研究テーマの分野を【最大3つ】までお選びください。
その政策研究テーマを選んだ理由や、具体的な研究内容があればお教えてください。

- 最も多かったのは「こどもに関わるおとなのWB向上方策の研究」であった。次いで、「困っている層のサポートの仕方の改善方策に関する研究」、「こどもの声の把握、対応の方策に関する研究」となり、「支援機関間の効果的な連携方策に関する研究」、「バイオ・サイコ・ソーシャル(身体的・精神的・社会的)にまたがる課題構造の実態分析」が続いた。
- 親のWB実現は、重要性やそれが後回しされがちな現状への懸念があげられた。また、こどもの声を拾って政策に反映させることの難しさや、困っている層へサポートを届けることや継続の難しさ、縦割り構造を超えた関係者間の連携が欠かせないといったご意見があった。



2. 政策研究テーマに関する構成員アンケートの結果(4)

● そのほか取り組んでほしい研究テーマがあれば教えてください。

- 他自治体や全国と比較ができる「共通の指標」があると客観的な評価が可能になる
- 親と子のウェルビーイングの関連という意味で、幸福を感じていない親に対して、自分のこどもの頃を振り返ったり、自身のこどもにどのような環境を作っているかやその背景等をヒアリングし要因分析を行う
- こどもは自身が幸せと思っているのか、その割合はどれくらいか、なぜ幸せと考えているのか、こどもの考えるウェルビーイングと我々の考えるウェルビーイングのギャップは何か、そのギャップを埋めるためにこういった活動をすれば良いのかという研究
- 児童虐待、ACE、社会的養護およびその経験者(いわゆる虐待サバイバーやケアリーバー)に関する調査。パネルであればより望ましいが、難しければ、たとえば児童福祉の行政データと、成人後の福祉や社会保障に関する行政データとをドッキングして分析することができればよいのではないか。
- 沖縄のシングルマザーにアンケートを実施し、前向きな回答があった者についてヒアリングを行い、その背景を分析する。
- アンケートで幸福だと答えた沖縄のこどもについて、そう感じる理由を聞く。
- アンケートで自分に自信があると答えた沖縄のこどもについて、その自信の根拠を聞く。
- 小規模離島のこどもたちは中学校を卒業すると親元を離れて生活をせざるを得ない。家族力の弱さ、卒業後の生活支援の必要性、高校中退率の高さなどから、必要な支援の検討が必要。
- ポジティブ・デビエンスの手法で、新しい知見が得られる可能性がある。ただし、どのような成功事例を取り上げるのが課題である。
- 沖縄の社会課題に取り組む子どもたちを育成するスクール(中学・高校の出席扱い)を開催し、その成果をみる。将来的にはそのカリキュラムを高校の課程としていくような実践研究
- 学外で自由な発想をぶつけ合い、自分で考えた課題に取り組むユースセンターの運営実証研究

3. 政策研究ニーズに関する個別意見交換結果

- 沖縄県庁、人口の多い離島のある石垣市・宮古島市、琉球大学のある宜野湾市と意見交換を実施した。

意見交換でのご指摘例

分類		ご意見例
沖縄のこどもにとって大切なこと		● 子どもたちが健康に成長して市内に働く場所があること。子どもたちが目標をもって、壁にぶつかりつつも成長すること。 ● こども本人が自分で選んで決定できるものが揃っていて、自己固定感、自己決定館があること。 ● こどもが「自分のことを見てくれている人がある」と実感できること。 ● こどもがイキイキと暮らせる社会。そのために、体験格差がない。等
研究テーマの構成について		● 基本的なファクト、ウェルビーイングの「構造分析」(研究テーマ例の2番目のカテゴリー)が重要であり、そのために「データ」(同3番目)が必要。その結果を受けて支援体制(1番目)を検討する流れがよいのではないか。
期待する研究テーマ	困っている層へのサポートの仕方	● 困っている層に負担感や抵抗感を感じさせずに支援を届けることは共通の課題。保護者がシャットアウトすると先に進めない。 ● こどもと大人に過去を振り返ってもらい、声を聴きたい。こどもと親の思いには違いがあるだろう。振り返ってもらうことで適切な介入のタイミングもわかるかもしれない。
	ウェルビーイングの構造分析	● こどもをとりまくリスク、課題の構造的なつながりを可視化していただけるとありがたい。
	教育・福祉・保健医療にまたがるデータ分析	● 健康指標との関係を分析してほしい。 ● 教育・福祉・保健にまたがるデータ分析が進んでいない。何が見えてくるか、期待したい。セクションをまたがると個人情報管理の面で難しい。
	ネット社会、子ども社会の変化	● 親世代と子どもの世代では違う。スマホの影響について構造を明らかにしてほしい。 ● 外遊びが減っているという問題がある。親が仕事で家にいない。
	思春期のこども、県内地域特性等	● 思春期のこども(中学卒業以降)について現状把握が難しくなり、支援が途切れてしまうのが全国的な課題。 ● 県内の都市部と離島部の違い等の分析が進んでいないので、現状分析を期待したい。
他に必要な研究テーマ、その他の指摘		● 取組の好事例を紹介してほしい。 ● 地域間のデータ比較ができるとよい。全国共通・沖縄県共通・市町村独自の設問という構成のデータがあるとよい。 ● 行政の各部署にこどもや家庭のデータはあるが、横断的な活用はされていない。データ現状や活用可能性の検討を研究者と一緒にできるとよい。予算確保にあたって、横の広がりをもったデータが活用できるとよい。 ● データ活用、分析等について指導いただけるとありがたい。 ● 「またここに戻ってきたいか」という指標があるとよい。生きづらい状況のこどもは勇気をもって島を出てほしいとも思う。



研究テーマ検討、研究以外に必要な機能の検討へ

4. (参考)政策連携、支援機関間連携の課題についての試行的分析

- 「中学卒業後のこども・若者への対応」について政策と課題をマッピングし、課題を検討した。
 - この分野を取り上げた理由は、自治体との意見交換、研究動向にかかる有識者ヒアリング、自治体との意見交換において課題があるとの指摘が多かったため。
- 政策と課題のマッピング図を次ページに示す。
 - 縦軸はこどもへの対応、横軸は政策領域
 - 主な課題点
 - 中学卒業後のこども・若者の実態把握は難しい。所属等が多様で、捕捉も調査設計も難しい。(図の左上)
 - 困難を抱えるこども個人の把握について、小中学校段階は基礎自治体で対応できるが、中学卒業後は把握しておらず、特に高校中退者などへの対応は難しい。(図の上から2行目)
 - 中学卒業後では、教育/福祉/保健医療に加えて就労の支援も必要。意欲を失った子について、その回復を助け、就労支援へとつなぐところに課題があるのではないか。(図の右下)
- 例えば、今後、以下のような研究が求められるのではないか。
 - 中学卒業後のこども・若者の現状、課題を把握する調査の検討、実施
 - 中学生以降のこどもが進む経路について、こどものカテゴリーを細分化した分析、対策の最適タイミング等の検討

(参考)中学卒業後のこども・若者への対応政策・課題のマッピング(案)

